Hamahome News 2022 vol.171

㈲濱田工務店
料金後納郵便
ゆうメール

はまちゃん新聞 7月

７月に入るとだんだんと暑い日が増えていき、夏の訪れを感じます。暑さが本格化すると、熱中症や冷房の効き過ぎなどによって体調を崩しやすくなります。こまめな水分補給も大切ですが、体温の低下は免疫の低下につながりますので、体の冷しすぎにも注意したいですね。夏は海水浴にキャンプ、夏祭りや花火大会など楽しいイベントが盛りだくさん☆コロナの状況をみながら、体調管理に気を付けて楽しみましょう～♪　(* ‘∀‘)/～ ♪♬♩♫♩♬♪♫♩

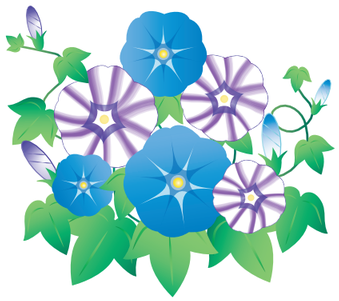
７月のイベント・行事

7/1（金）　氷室の日
7/2（土）　半夏生（はんげしょうず）
7/7（木）　七夕、小暑
7/13（水）～7/16（土）　新盆（７月盆）
7/18（月）　海の日
7/23（土）　大暑

七 夕（たなばた）

七夕といえば織姫と彦星の物語ですが、この物語のルーツは中国の「星伝説」です。牛飼いの「牽牛（けんぎゅう）」と天帝の娘で機織りの名手「織女（しょくじょ）」は、結婚を機に仕事をサボるようになり、天帝の怒りをかったことで、２人は年に一度、７月７日の夜にしか会えなくなりました。由来は他にもあり、中国の「乞巧奠（きこうでん）」という行事もその一つです。「乞」は願う、「巧」は上達する、「奠」はまつるという意味で、７月７日に織姫にあやかり、機織りの技が向上するように祈りを捧げる風習から生まれたといわれています。やがて機織りの技術にとどまらず、芸事や書道などの上達を願う行事へと変化していったそうです。日本にはこの行事が平安時代に伝わり、宮中でも取り上げられました。この「乞巧奠」と「星伝説」が合わさり更に日本古来の「棚機つ女（たなばたつめ）」伝説が融合しました。棚機つ女は、水辺で神様に捧げる衣を織りながら神様を待つ乙女のことで、この棚機つ女と織姫が結びつき、七夕と書いて「たなばた」と読むようになり、７月７日を七夕として祝うようになりました。

７月の花



朝顔（アサガオ）

花言葉・・愛情・結束
由来・・・朝顔は日本で古くから親しまれていますが、日本原産ではなく、奈良時代に中国から薬草として渡来しました。観賞用として楽しまれるようになったのは江戸時代で、最初は青い花だけだった朝顔ですが、突然変異で出来た株の栽培を繰り返して変わった色や形の花を産み出しました。「大輪アサガオ」や「変化咲きアサガオ」が大流行し２度のブームが起きました。新しい物好きの江戸っ子たちに喜ばれたようです。名前の由来は「朝の容花（かおばな）」という言葉からきていると言われていて、「容花（かおばな）」とは美しい花を意味する言葉です。

睡蓮（スイレン）

花言葉・・清純の心・信仰・信頼
由来・・・世界中の熱帯から温帯域に分布。湖沼や緩やかな河川などに生息し 50 種ほどが知られています。日本にはヒツジグサのみが自生している他観賞用に多数の園芸品種が作られています。園芸用のスイレンは温帯スイレンと熱帯スイレンに大別され、温帯スイレンは耐寒性があり、花色は赤・黄・白などで水面近くで開花します。熱帯スイレンは耐寒性がなく、青や紫の花色もあり水面から少し離れた所で開花します。ハスと似ていますがハスは水面から１m以上高い所に花や円形の葉があり、スイレンの葉は水面近くにあり大きく切れ込みが入っています。

ネジバナ

花言葉・・思慕
由来・・・日本全土、ヨーロッパ東部からシベリアにかけて温帯・熱帯アジア全域、オセアニアなどに広く分布しています。ラン科ではめずらしく、芝生や土手、公園など身近で見る事が出来ます。個体寿命が短く、短期間で世代更新を続けますが、自生状況が安定しないので何年も健全に育っていても植え替えて土中の共生菌との関係を乱してしまうと枯れてしまいます。名前の由来はらせん状にねじれた花の姿が特徴的だった為、そのまま名前になった様です。花の付き方は色々で、左巻き、右巻き、中には一直線に並んだものもあるそうです。

7月のしシピ　「ホットケーキミックスでさっくりふわふわ豆腐パン」

【材料…２人分（４個）】
- ホットケーキミックス　100g
- 木綿豆腐　100g
- オリーブオイル（ｻﾗﾀﾞ油でも可）　大さじ１と1/2
- A ・砂糖　大さじ 1/2
  ・塩　ひとつまみ

【作り方】
① ボウルにホットケーキミックスと A を入れてよく混ぜ、豆腐をざっくりと潰しながら加えオリーブオイルも加える。
② ①をさっくりと混ぜ、ひとまとめにする。
③ ②を４等分にして丸め、中心に十文字に切れ込みを入れます。アルミホイルを敷いた天板にのせ 200℃のオーブントースターで 12 ～15分焼いたら出来上がり。（1000W で12～15分）
※ アルミホイルにサラダ油やバターを塗っておくとくっつかず取り外しやすいです。

お豆腐は混ぜすぎない方がふわふわに仕上がります～♪

四万十にお住まいの「みやちゃん」さんの素敵なお料理ブログからレシピをご紹介♪
四万十住人の簡単料理ブログ
http://shimanto-miyachan.blog.jp/

Instagram やってます。　＼Follow Me !／　@hamahome2021

濱田工務店の facebook

2022年6月22日水曜日

久々の投稿になります。奥能登は現在地震が絶えず起きて居ります。その中でも工事の方は順調に捗り外構工事が行われて居ります。今月中には略完成と成ります。また、有難い事ですが新たな工事が次から次へと増えていきます。子供達が夏休みに入るまでに全ての工事を完成させなくては成りません。子供達が楽しく遊べる様に頑張ります。・・・はい

なるべく毎日更新中！　http://hama-home.jp/wp/

2022年7月 建築吉日カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
					1 友引 氷室の日	2 先負 半夏生 建築吉日（ひらく）
3 仏滅	4 大安	5 赤口	6 先勝 建築吉日（みつ）	7 友引 七夕 小暑 建築吉日（みつ）	8 先負 建築吉日（たいら）	9 仏滅 建築吉日（さだん）
10 大安	11 赤口	12 先勝	13 友引 建築吉日（なる）	14 先負	15 仏滅 建築吉日（ひらく）	16 大安
17 赤口 建築吉日（たつ）	18 先勝 海の日	19 友引 建築吉日（みつ）	20 先負	21 仏滅 建築吉日（さだん）	22 大安	23 赤口 大暑
24 先勝	25 友引 建築吉日（なる）	26 先負	27 仏滅 建築吉日（ひらく）	28 大安	29 先勝 建築吉日（たつ）	30 友引
31 先負						

※祝日は法律の改正により変更になる場合があります。

地鎮祭や上棟式、お引越しのスケジュール立てに参考までにご活用下さい。

『たつ』　開店、移転、柱立て、棟上げ、新規事の開始など、すべてに大吉。
『みつ』　建築、移転、開店、祝い事、すべて吉。
『たいら』　地固め、柱立て、祝い事、すべて円満。
『さだん』　建築、移転、開店、新規事の開始などすべて吉。
『なる』　新規事の開始は吉。
『ひらく』　建築、移転、開店、すべて吉。

はまホーム　検索

〒920-0356　金沢市専光寺町ワ 56-1
0120-969-003　076-266-1212

お盆のあれこれ

夏の伝統行事である「お盆」ですが、地域によって期間に違いがあることや、祝日ではないお盆が休日に指定される理由など「仏事におけるお盆」と「一般的なお盆休み」の両面から色々調べてみました。

お盆の期間

◤仏事におけるお盆の期間◢

・新暦７月 13 日～ 16 日《７月盆・新盆》…東京、横浜、静岡、石川の一部地域
・新暦８月 13 日～ 16 日《８月盆・月遅れの盆・旧盆》…その他の地域
・旧暦７月 15 日（新暦では８月中旬～９月上旬）《旧盆》…沖縄地方など

日本のお盆の習慣は８世紀頃からで、当時は太陰暦の７月 15 日を中心に、７月 13 日から 16 日の期間をお盆としていました。明治６年に政府が太陰暦を国際基準の太陽暦に変更した際に、新暦の７月 15 日が農繁期で支障が出る地域が多かった為、１か月遅れの新暦８月 15 日を中心とした８月 13 日から 16 日がお盆の期間になりました。しかし、農繁期に重ならない地域では新暦７月 15 日を中心に７月 13 日～ 16 日をお盆の期間とした所もありました。沖縄地方では、旧暦の７月 15 日が新暦で何月何日になるかをきっちり計算してお盆を迎えています。その為、毎年日付が変わり９月にずれ込むこともあります。ちなみに 2022 年の旧盆は８月 10 日～ 12 日です。

◤一般的なお盆休みの期間◢

お盆休みは全国共通で「旧盆（８月盆）」を基準に決められるのが一般的で、2022 年は８月 13 日から 16 日がお盆休みの基準となります。お盆そのものは祝日として定められてはいませんが、多くの企業がお盆期間は休日と指定しています。お盆が祝日ではないのに休みになったのには「藪入り」という風習が関係しているそうです。江戸時代に住み込み奉公していた奉公人がお正月とお盆に休みをとって実家に帰る「藪入り」という習慣がありました。この習慣が受け継がれて年末年始・夏時期の帰省が風習として残り、特に夏時期の帰省は仏教上のお盆の風習と結びついて親族が揃いご先祖様の供養を行う風習として根付きました。

お盆の由来

お盆の正式名称は、盂蘭盆会（うらぼんえ）といいます。盂蘭盆会とはインドのサンスクリット語のウラバンナ（逆さ吊りの意味）を漢字に音写したもので、転じて「逆さまに吊り下げられるような苦しみにあっている人を救う法要」という意味です。お盆の行事はお釈迦様の弟子の一人だった目連尊者（もくれんそんじゃ）が母を救う話に由来しています。目連尊者は亡き母が地獄で逆さ吊りにされて苦しんでいると知り、母を救うためにお釈迦様に教えを乞いました。「夏の修行が終わった７月 15 日に僧侶を招き、多くの供物を捧げて供養すれば母を救うことが出来る」とおっしゃられたお釈迦様の教えの通りにしたところ、その功徳によって母親は極楽往生がとげられたそうです。中国から入ってきた仏教に基づく盂蘭盆会と、日本に古来よりあったご先祖様に感謝する習慣が合わさって「お盆」という行事として現代まで伝えられてきました。日本でお盆が行われたのは、６０６年に推古天皇が「推古天皇十四年七月十五日斎会」という行事を行ったのがはじめだと言われています。それから貴族や武士、僧侶などの上流階級の行事になり、江戸時代になると庶民の間にも広まります。その理由は、仏壇や提灯に欠かせないロウソクが大量生産で安価に取得できるようになったことから日本全国に広まったそうです。

お盆にお墓参りに行く由来

お盆にご先祖様は家に帰ってくるのに、お墓参りに行くのは何故なのか？と疑問に思った方もおられるのではないでしょうか。お盆の歴史には諸説あり、仏教だけではなく日本に古来からある信仰も交じり合っているため、お盆の過ごし方や考え方は地域によって変わります。なのでどれが正解とは言えませんが、いくつか由来があります。

① 迎え火と送り火をお墓で焚いていた歴史があるから・・・昔は迎え火と送り火をするためにお墓に行っていました。今でも 13 日になるとお墓へお迎え提灯を持って行ったり、お墓で迎え火や送り火を焚く地域があります。
② お墓を守ってくださっている仏様へ感謝をするため・・・ご先祖様が自宅に帰ってきているので、お盆中はお墓は留守の状態であるという考えから、この留守の間もお墓を守ってくださっている仏様へお礼をするためにお参りをする地域があり、「留守参り」と呼ばれたりしています。
③ 中国から伝来してきた儒教の影響で、日本古来より「魂魄（こんぱく）思想」という考え方があるから・・・人は「精神＝魂」と「肉体＝魄」からなり、死後には魂は天に昇り、肉体は地に帰るという考え方で、地上へ帰る「魄」を大切に祀るためにお墓が建てられました。お盆になると天に昇った「魂」はお墓に眠る「魄」のもとへ帰ってくるとされ、お盆の迎え火は本来このお墓に帰ってきた「魂」をお迎えにあがるという行為でした。つまり家に帰ってきているのは「魂」だけで、「魄」は変わらずお墓に眠っているので、この「魄」にも手を合わせるためにお墓参りに行くとされていました。

お盆に関連した行事

七夕

七夕は別名「棚幡」と書き、お盆にご先祖様を迎える「精霊棚」に安置する「幡」のことで、７月７日の夕刻から精霊棚を設け、幡を安置してお坊さんにお経をあげてもらうのですが、ここから棚経（たなきょう）と言うようになったそう。笹の葉は先祖の霊が宿る依代（よりしろ）の意味があり、七夕はお盆行事の一環として執り行われていました。

盆踊り

盆踊りの由来は、仏教の「念仏踊り」だとされています。この念仏踊りとは、自分自身で念仏を唱えながら踊るもので、後に踊る人と念仏を唱える人に分かれ「踊り念仏」に発展しました。夏のイベントの一つですが、ただの踊りではなくご先祖様をもてなすための神聖な行事です。室町時代から始まり５００年の歴史があります。

お盆はご先祖様や故人様をお迎えして感謝や供養をするために、お墓参りやお盆飾り、お供え物などをして過ごすのが一般的ですがお盆期間中に行くのが難しいという場合には、お仏壇やお位牌に手を合わせて感謝の気持ちを伝えると良いですね。コロナ渦でしばらく帰省できなかった方も多いと思います。今年のお盆はコロナが落ち着いて、久しぶりに顔合わせできるといいですね。

二十四節気 ― 七十二候

小暑

7月7日頃

小暑（しょうしょ）とは、梅雨が明け、暑さが本格的になる頃。蝉も鳴き始め、暑中見舞いを出すのもこの頃です。暑い夏を乗り切る為に、沢山食べて体力をつけておきたいところです。

温風至　あつかぜいたる　7/7～7/11 頃
雲の間から注ぐ陽がだんだんと強くなる頃。温風とは湿った空気が山を越え、乾いた温かい風となって吹き降ろすフェーン現象のことを表しているとも言われています。

蓮始開　はすはじめてひらく　7/12～7/16頃
蓮がゆっくりと蕾をほどき、花を咲かす頃。水底から茎を伸ばし、水面に葉を浮かべ、綺麗な花を咲かせる蓮ですが、花が咲いてから四日目には散ってしまいます。

鷹乃学習　たかすなわちわざをなす　7/17～7/22頃
五・六月に孵化した雛が、巣立ちの準備をする頃。独り立ちができるように飛び方を覚え、獲物の捕り方を覚え「独り」ということを一から学びます。

大暑

7月23日頃

大暑（たいしょ）とは、一年でもっとも暑さが厳しく感じられる頃。体力を保つために鰻を食べる「土用の丑」、お祭りや花火大会もこの期間に多く行われ、夏の風物詩が目白押しです。

桐始結花　きりはじめてはなをむすぶ　7/23～7/27頃
桐が花を咲かせる頃。盛夏を迎える頃に卵型の実を結びます。桐は伝統的に神聖な木とされ、豊臣秀吉などの天下人が好んだ花であり、現在も日本国政府の紋章として使用されています。

土潤溽暑　つちうるおうてむしあつし　7/28～ 8/1 頃
熱気がまとわりつく蒸し暑い頃。私たちは、この暑さを打ち水などでしのぐことしかできませんが、木や草花は緑をますます濃くして夏を歓楽しているようです。

大雨時行　たいうときどきふる　8/2～8/6頃
夕立や台風などの夏の雨が激しく降る頃。きれいな青空に湧き上がる入道雲は、夕立を教えてくれます。雲の頭が坊主頭に見えることから、入道雲と呼ばれています。

土用のウナギ

「土用の丑の日」といえば夏のイメージですが、実は季節ごとに存在します。「土用」とは「立春・立夏・立秋・立冬」の前１８日間のこと（季節の変わり目）を指します。「丑」は十二支の丑のことで、昔の暦では十二支で日にちを数えていたので、１２日ごとに「丑の日」が回ってきます。つまり、「土用の丑の日」とは、土用の期間におとずれる丑の日の事を指していて、１８日間の土用の期間中に丑の日は１～２回発生します。２回ある場合は２回目を「二の丑」と呼びます。ちなみに、夏の土用とは立秋の前の１８日間なので、今年の「土用の丑の日」は７月２３日（土）と８月４日（木）となります。夏にウナギを食べていたのは１０００年以上も前からのようで、「万葉集」には“石麻呂に吾れもの申す夏痩せによしといふものぞむなぎとり召せ（夏痩せにはうなぎを食べると良い）”と友人にウナギを勧める歌があるそうです。昔から体調を崩しやすい夏にはウナギを食べて栄養を摂ろうという考えがあったのですね。実際に、ウナギにはビタミンＡやビタミンＢ群など、疲労回復、食欲増進に効果的な成分が多く含まれているので、夏バテ防止にはピッタリの食材です。土用の丑の日にウナギを食べるようになったのには諸説あり、有力なのが売上不振の鰻屋に平賀源内がアドバイスをしたという説です。丑の日には「う」の付く食べ物を食べると良いという風習からヒントを得て、「本日は土用の丑の日、鰻を食うべし」という貼り紙をするように言ったところ、大繁盛したとか。それ以来、土用の丑の日はウナギを食べる日として根付いていったと言われています。最近は酷暑となる年が多いので、ウナギを食べて暑い夏を元気に過ごしたいですね！

住宅建築まめ知識

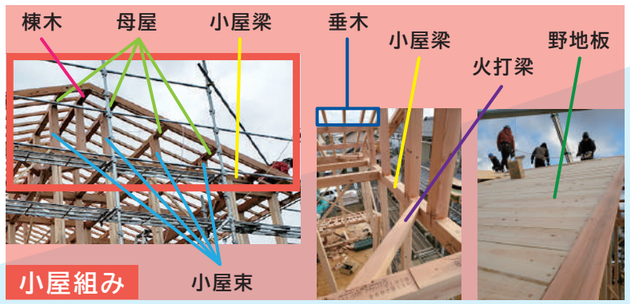
今回のテーマは　**建て方**

次回のテーマは…躯体検査

建て方とは、現場で建物の主要な構造材を組み立てることです。木造住宅の場合、土台の据付から柱、梁、棟上げまでの作業工程をいいます。ちなみに、棟（むね）というのは最上段の横架材のことです。あらかじめ「ほぞ」を掘ったり、「継手（つぎて）」を加工した多数の木材をクレーン車で吊り上げ、大工さんたちが「かけや」と呼ばれる樫（かし）などの硬い木で作られた大きな槌（つち）を使って、柱や梁を組んでいきます。建て方は工事のなかで最も大がかりな仕事で、家の形がはっきりと出来上がり、目に見える形となる瞬間なのでお施主様にとっても特別な日となります。

❶１階土台の上に柱を立てて梁でつなぐ
❷２階の床となる部分に構造用合板を張る
❸２階の柱を立て桁や梁で柱をつなぐ

❹天井部の梁（小屋梁）から上に小屋束（こやづか）、母屋（もや）、垂木（たるき）、火打梁（ひうちばり）、棟木（むなぎ）、野地板（のじいた）と設置していきます。これらを小屋組み（こやぐみ）と言い、屋根を支える屋根裏の骨組みのことです。一番上の材料までつなげれば、いわゆる上棟（棟上げ）です。



編集後記

ami

６月１９日に起きた能登地方の地震で被害にあわれた方にお見舞い申し上げます。震度６弱の揺れとは想像もできません。とても怖かったことと思います。現在、能登町で進めている工事現場では被害が無かったようなので安心しました。無事に完成するように、頻発していた地震がこのまま終息するように祈っています。私の住むところは震度２でしたが、二階にいたので揺れに気付いて慌てて下に降りたところ、下の階にいた老犬と猫はのんびり寝ていました（ ˇωˇ)ｽﾔｧ。野性の勘はいずこへ…。コロナに地震、心配事も多いですが、気持ちだけは前向きでいたいですね。そのほうが、体にも良いはずです～！！

はまちゃん新聞